

耐震改修において使用する減災協の工法に関する質問書

愛知建築地震災害軽減システム研究協議会にて評価している工法(参照:減災協HP及び木造住宅低コスト耐震補強の手引き等)についての疑問・質問をご記入ください。

【質問者情報】

氏名		電話番号	
所属 (会社等)		FAX	
		e-mail	
所属先住所 (県名から記入)			

【質問・疑問内容】

		記入日	令和4年8月2日
表題	上下空き工法と併用できる耐力要素について	工法番号	A-435等
※質問内容について具体的に記入してください。 関係する資料等(木造住宅低コスト耐震補強の手引き・311ページ) 関係する講習会等() 上下空き仕様(例えば A-435)に組み合わせる耐力要素として W-017i ガーディアン工法「制震補強壁ガーディアン・クール工法」のガーディアン・クール C2 を併用することは OK でしょうか。			

【回答(減災協で記入)】

		記入日	令和4年8月16日
メーカー工法では、柱脚金物や柱の止付け等で工夫されているものが多くあります。 それぞれの壁の耐力に影響がないと判断できる場合は、設計者判断で併用する等、設計してください。			

耐震改修において使用する減災協の工法に関する質問書

愛知建築地震災害軽減システム研究協議会にて評価している工法(参照:減災協HP及び木造住宅低コスト耐震補強の手引き等)についての疑問・質問をご記入ください。

【質問者情報】

氏名		電話番号	
所属 (会社等)		FAX	
		e-mail	
所属先住所 (県名から記入)			

【質問・疑問内容】

		記入日	令和4年9月1日
表題	同一面に施工された構造用合板の評価について	工法番号	A-435、A-233
<p>※質問内容について具体的に記入してください。 関係する講習会等(建防協 Q&A7.4)</p> <p>碧南市において木造耐震改修補助の申請がされた住宅の補強方法について相談させていただきます。</p> <p>真壁に構造用合板補強を行う場合、同一面に【部分開口 構造用合板補強工法 真壁「上下あき」アルミ材下地(A-435)】と、【部分開口 構造用合板補強工法 大壁「上下あき」裏棧なし(A-233)】を施工した場合(別添図面参照)有効に評価してよいのでしょうか？</p>			

【回答(減災協で記入)】

	記入日	令和4年9月12日
<p>土壁がある状態での A-435 真壁上下あきアルミ下地と A-233 大壁上下あき裏棧なしを併用する場合は、仕様上同じ個所に接合することは問題ありません。</p> <p>ただ、アルミアングルと柱の釘を斜めに施工しないと柱の欠損が集中する恐れがありますので注意して施工してください。</p>		

耐震改修において使用する減災協の工法に関する質問書

愛知建築地震災害軽減システム研究協議会にて評価している工法(参照:減災協HP及び木造住宅低コスト耐震補強の手引き等)についての疑問・質問をご記入ください。

【質問者情報】

氏名		電話番号	
所属 (会社等)		FAX	
		e-mail	
所属先住所 (県名から記入)			

【質問・疑問内容】

		記入日	令和4年11月22日
表題	勝ち・負け・単独について	工法番号	
<p>※質問内容について具体的に記入してください。 関係する資料等(耐震補強の手引き・28ページ、Q&A19ページ、Q&A24ページ)</p> <p>入隅に合板を設置したい場合の判断についての質問です。</p> <p>①入隅の合板が、直交する合板に、押さえられている時、勝ち・負け を評価するのでしょうか。</p> <p>②入隅の合板が、直交する壁に、石膏ボードが張られている場合は、単独となるのでしょうか。</p> <p>③入隅仕様のない耐力壁(例えば、A242)は、片側入隅を受け材仕様として、壁基準耐力を低減することは可でしょうか。</p>			

【回答(減災協で記入)】

	記入日	令和5年2月1日
<p>①あくまでも入隅における勝ち・負け・単独の納まりにする場合の評価です。負けと同じおさまりであれば負けで評価できます。</p> <p>②①と同様の考え方とします。ただし、石膏ボードが厚い場合は不可となります。</p> <p>③真壁と大壁の評価がある場合は2022年版Q&AのQ39を参考としてとして評価が可能です。仕様がなければ評価は不可となります。</p>		
<p>受材は、挟まる合板・石膏ボード分伸ばす必要が生じる 通常納まりと同等以上柱に入るような釘が必要となる。</p> <p>⇒釘接合部の納まりで性能が変化する。構造用合板、石膏ボードが通常(12mm)より厚い場合は壁の性能を満足できない可能性がある。</p> <p>柱</p> <p>構造用合板</p> <p>釘</p> <p>構造用合板 または 石膏ボード</p>		

耐震改修において使用する減災協の工法に関する質問書

愛知建築地震災害軽減システム研究協議会にて評価している工法(参照:減災協HP及び木造住宅低コスト耐震補強の手引き等)についての疑問・質問をご記入ください。

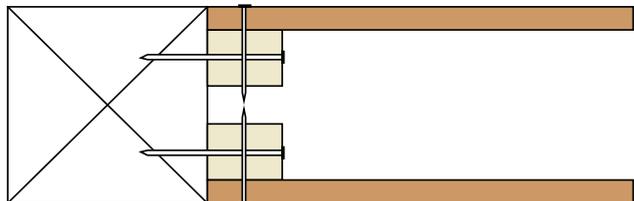
【質問者情報】

氏名		電話番号	
所属 (会社等)		FAX	
		e-mail	
所属先住所 (県名から記入)			

【質問・疑問内容】

		記入日	令和4年12月6日
表題	A-432 室内側から2壁施工	工法番号	A-432
<p>※質問内容について具体的に記入してください。</p> <p>関係する資料等(70 ・ ページ)</p> <p>関係する講習会等()</p> <p>Q、外壁を解体せずに、室内側から A-432 の補強壁を奥(外壁側)手前(室内側)に施工することはできませんか？</p> <p>また、できるとしたらホームズ君の入力は、壁材種設定で A-432 の壁基準耐力 5・2kN/m、壁基準剛性 730kN/rad./m を倍にしたもので入力できますか？</p>			

【回答(減災協で記入)】

	記入日	令和5年2月1日
<p>通常の真壁両面打ちと同じ位置に受材を配することができるのであれば可能と考えられます。ソフトの入力はわかりかねるが、1枚の壁の範囲に表側及び裏側から施工したものとして入力できるかと思われます。</p>		
<p>通常納まり(両面真壁)</p> 		
<p>片側施工(両面真壁)</p> 